

群 教 セ	G01 - 02
	令6. 287集
	国語一小

自ら学びに向かい、課題を解決することができる児童の育成

—自己決定の場面を取り入れた 学びアップカードの活用を通して—

特別研修員 山内 隼

I 研究テーマ設定の理由

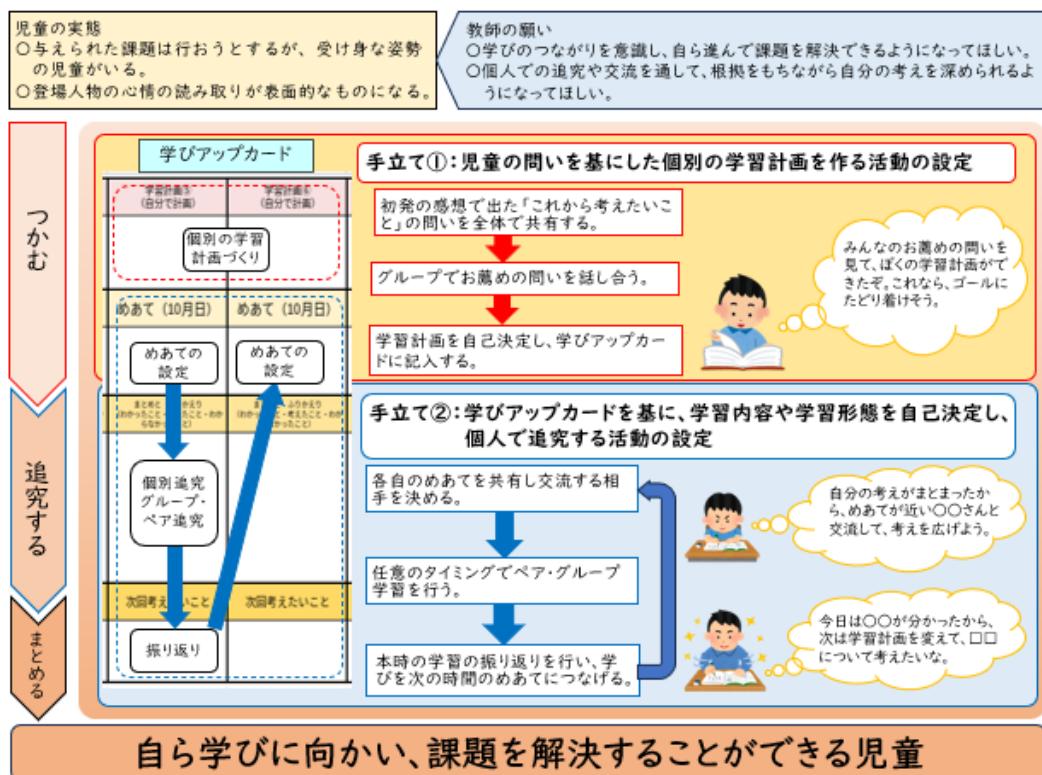
令和3年1月に示された中央教育審議会の答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」では、「学習の進め方を自ら調整していくことができるよう、発達の段階に配慮しながら指導することが大切である」「授業改善に当たっても、学習の進め方（学習計画、学習方法、自己評価等）を自ら調整する力を身に付けさせることを一つの柱として行うことが考えられる」と述べられている。これからの中長期的变化を予測することが困難な時代を前に、児童が自ら課題を見付けて学びを進め、課題を解決していく力を身に付けていくことを考えると、児童自らが学習課題や学習活動を選択する機会を設けた個別最適な学びを通して、自ら学習を調整する力を育成していく必要がある。

研究協力校の児童は、与えられた課題は行おうとするが学習に対して受け身の姿勢が多く、自分から進んで疑問を解決しようしたり、根拠を基に粘り強く考えたりすることに課題がある。

そこで、文学的な文章の学習において、児童の初発の感想を基にした単元の学習課題の解決に向かい、個別の学習計画表を活用しながら、個別追究と任意の交流を繰り返すことを通じて、納得いくまで追究したり、自分の考えを振り返ったりしながら、課題を解決することができる児童の育成を目指し、上記のとおり主題を設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 研究上の手立て

自ら学びに向かい、課題を解決することができるよう、以下の手立てを講じる。また、本研究では、「学びアップカード」を活用する（5ページ「V 資料」参照）。学びアップカードとは、児童が個別の学習計画を基に単位時間ごとに個別のめあて、まとめと振り返り、次回考えたいことを記入していくことで、自分の学びの積み重ねを確認できるものである。

手立て1 児童の問い合わせに基いた個別の学習計画を作る活動の設定

個別追究を成立させるためには、児童の知りたい、考えたいという思いが必要不可欠である。児童の初発の感想を基に単元の学習課題として設定することで、児童が課題を自分事として捉え、課題解決に向けて前向きな気持ちをもてるようにならう。また、設定した課題の解決に向けて、どんな問い合わせを追究していくよいかをグループで検討することで、つながりのある個別の学習計画を作ることができると考える。

手立て2 学びアップカードを基に、学習内容や学習形態を自己決定し、個人で追究する活動の設定

個別追究の際には、児童は学習内容を児童自身で決めていく必要があり、学びアップカードを活用することで、学習の見通しをもったり、学習を振り返ってつながりを見付けたりする中で学びを積み重ねることができる。また他の児童と交流したいと考えた児童は、学びアップカードを見ることで、他の児童がどんなことを追究しているかを見ることができ、自分と似ためあてを追究している児童と交流することを通して、考え方を広げたり深めたりすることができると考える。

III 実践例

- 1 単元名 「気持ちの変化に着目して読み、感想を書こう」
教材名 「ごんぎつね」光村図書（第4学年・2学期）

2 本単元について

本単元で扱う「ごんぎつね」は、場面が六つの場面に明確に分かれており、一つ一つの場面での登場人物の気持ちを読み取り、前後の場面と比べることができ、場面の移り変わりとともに変化する登場人物の気持ちを捉えやすい。また、物語の最後は「青いけむりが、まだつづきから細く出ていました」という情景描写で締めくくられる。こうした情景描写からも登場人物の気持ちに迫れることに気付かせたい。最後の場面に至るまでにごんと兵十がどんな気持ちの変化をしてきたか、お互いのことをどのように考えてきたかなど、読み取ってきた様々な考えを結び付けていくことで、より深く作品を読み深めたい。

そこで、本単元では「物語の結末に対する感想を書く」という言語活動を設定する。結末の部分は登場人物の心情が具体的に多くは語られず、想像できる余白が大きいので、自分の読みを反映した感想を書くことができる。感想を書く際には、結末部分の叙述のみで登場人物の思いを想像するのではなく、そこに至るまでの気持ちの変化を踏まえた上で想像することで、より深い読みとなるようにしたい。

学びアップカードを活用して同じようなめあての児童と交流をすることを通して、児童はお互いの考え方やその理由を比べることで、新しい気付きを得ながら学習を進めることができる。こうした気付きを基に、時には学習計画を変更して追究を進めていくなど、自分の学びを調整しながら学習を進めることで、登場人物の気持ちの変化を捉え、単元の学習課題に対する自分の考えを更に深めていけると考える。以上のような考え方から、本単元では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	(1) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には、性質による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができます。（知識及び技能） (2) ①登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移りわりと結び付けて具体的に想像することができます。（思考力、判断力、表現力等）
----	--

	(3) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	
評価規準	(1) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、文章の中で使うとともに、言葉には、性質による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。 (2) ①「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。 ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。 (3) 進んで、登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって、物語の結末についての感想を書こうとしている。	
過程	時間	主な学習活動
つかむ	第1時 第2時 第3時	・物語の概要を知り、初発の感想を書くことができるようとする。 ・前時の感想を基に単元の学習課題を作ることができるようとする。 ・単元の学習課題の解決に向かって、個別の学習計画を立てができるようとする。
追究する	第4～7時 第8時 第9時	・学習計画を基に「今日のめあて」を決めて個別追究や交流をすることで、登場人物の気持ちの変化や関係を読み取ったり、想像したりすることができるようとする。 ・学びアップカードを基に、単元の学習課題に対する結論（物語の結末について、どのような感想をもっているか）を決めて、自分の考えを整理できるようとする。 ・物語の結末に対する感想を書き、伝え合うことができるようとする。
まとめる	第10時	・学びアップカードを基に自分の学習を振り返ったり、前時に書いた感想と初発の感想を比べたりすることを通して、単元全体の学習を振り返ることができるようにする。

3 授業の実際

本時は全10時間計画の第3時に当たる。

(1) 手立て1について

第1時で物語を読んで、これから考えたいことを書き、第2時で共有した後に場面ごとに整理し、学級全体で話し合って単元の学習課題を決めた。

第3時（本時）は、グループでお薦めの問い合わせを考える活動を通して、単元の学習課題の解決に必要な内容を整理し、課題解決に向けた個別の学習計画を作った。第2時で共有したこれから考えたいことの中から、話し合いを通してお薦めの問い合わせを見付ける活動を設定することで、学習計画が指導事項や学習課題から大きく外れないようにした。児童は自分たちの初発の感想を基にした学習課題に対して「自分の考えをパワーアップさせたい」と発言するなど、課題を自分事として捉え、課題を解決するために必要な問い合わせについて話し合うことができた（図1）。また、タブレット端末で共有した問い合わせのカードを見比べながらお薦めの問い合わせを話し合うことで、登場人物の心情が読み取れる叙述や場面に注目しながら、個別の学習計画を作り、「学びアップカード」に記入することができた。

(2) 手立て2について（第4時～第7時）

「学びアップカード」を活用し、個別追究と任意のペア・グループ学習を繰り返しながら、自分の考えを積み重ねた。「学びアップカード」に、その時間の各自のめあてを一覧で表示したことで、児童は自分の意見を書き終わると、めあてが近い児童と積極的に交流することができた（図2）。

ペア・グループ学習は任意のタイミングで行うこととし、自分の考えがまとまり、行き詰まつたりした時に学びが進められるようにした（図3）。また、教師が「学びアップカード」を見て、個々の学習状況を把握することで、参考になる考えをもっている児童との交流を促すなどの学習支援を行った。児童は自分の考えが書けるとすぐに交流を開始するなど「自分の考えを伝えたい」という気持ちをもって取り組んでいた。また、交流を通して自分の考えに対する自信を深めたり、相手の考え方や学習の進め方を自分の学びに取り入れ

S1：「ごんがどうしていたずらをするのか」はどうかな。
S2：ごんはただ意地悪がしたかっただけではないかもね。
S3：ごんは一人ぼっちで寂しいから、いたずらをしたのかな。
S4：栗や松茸を届けた場面の気持ちと比べると変化も考えられそう。
S1：ごんの気持ちの変化を考えるときに、最初に考えられるよさそうだね。

図1 お薦めの問い合わせを決める交流の様子



図2 児童が交流する相手を決めている様子



図3 学習形態を選択して学習を進めている様子

たりすることで、登場人物の気持ちをより深く読み取ることができた（図4）。

- S1：ごんは兵十を「おれと同じ、ひとりぼっち」だと思って栗を届けていたから、撃たれて悲しい気持ちだと思う。
S2：なるほど。私は「神様の仕業」と思っていたから、栗を届けていたのが自分だと気付いてもらえて、うれしい気持ちもあると思うよ。
S3：たしかに。「火縄じゅうをばたりと取り落としました」のところから、兵十の受けたショックが分かるけど、ごんの思いは兵十に伝わっているのかな。
S4：兵十の気持ちも考えられると、この場面のことがもっと分かりそうだね。

図4 任意の交流を通して、考えを広げている様子

(3) 考察

本研究では、自分たちの初発の感想を基に学習課題を決め、その解決に向けた個別の学習計画を作って追究する授業を構想した。自分や友達の感想をもとにすることで、学習を自分事として捉えることにつながり、「考えたい」「伝えたい」という意欲的な態度につながる様子が見られた。個別追究では、学習の内容、方法、形態を児童が選択できるようにしたことで、主体的に学習を進むことができた。また、追究の授業を重ねるごとに、交流を通して考えることのよさを実感し、同じようなめあてを考えている児童同士が声を掛け合って集まり、意欲的に意見交換を行っている姿が見られた。児童が交流したいと思ったときに交流できるため、自分の考えを伝え合いたい児童は納得いくまで交流を行い、自分の考えを明確にできず他の児童の意見を参考にしたい児童は、交流を通して他の児童の意見を取り入れながら考えを広げることができた。

本実践では、4回の個別の学習を設定したが、学習を進める中でより追究したいことや新しい気付きが出てくると、当初の計画を修正しながら学習を進めており、自分で考えをもちながら学習を進めている姿が見られた。児童の自分の問い合わせを解消するためにもっと調べたり考えたりしたいという思いは振り返りにも表れており、自分が納得いくまで粘り強く取り組む姿勢で学習が行われていた。以下、振り返りの記述の様子である（図5）。

- ・分からなかったことを分かるまで考えたり、前の時間に分かったことから、次の時間の計画を変更して自分で学習計画を決めたりできたので、自分が考えたいことを納得いくまで考えることができた。
- ・ごんや兵十の気持ちをじっくり考えて何度も教科書を読み、理由を探したり友達と交流したりするといろいろな考えに気付くことができた。

図5 単元の振り返りの記述

また、交流を行っただけでは学習の深まりが見られない児童も見られたときには、教師が他の考えをもつ児童を紹介したり、補助発問やヒントを載せたカードを送ったりすることにより、新しい視点や考え方を得ながら学習を進めることができた。単元の最後に書いた感想では、ここまでに児童が考えてきたことや交流して得た考えが入った感想文を書くことができた。学びを自分事として捉え、学びアップカードを核として交流をしながら個別追究するという手立ては、自ら学びに向かい、課題を解決しようとする児童の育成に一定の効果があったと言える。

IV 研究のまとめ

1 成果

児童の問い合わせを基に個別の学習計画作りと追究を行ったことで、児童は学習を自分事として捉えることができ、「自分の考えを伝えたい」「友達の考えを聞いてもっと深めたい」という思いから、主体的に取り組む姿が見られた。また、自分の学びを振り返って学習計画を修正する学習形態にすることで、児童は叙述を基に登場人物の気持ちの変化について試行錯誤しながら考えを深め、単元の学習課題に迫ることができた。

2 課題

学習状況に応じた個別の支援が必要となる。支援が多岐にわたるので、効果的な学習環境や単元構想を工夫する必要がある。

V 資料

タブレット端末で共有した「学びアップカード」

学習計画①	学習計画②	学習計画③	学習計画④ (自分で計画)	学習計画⑤ (自分で計画)	学習計画⑥ (自分で計画)	学習計画⑦ (自分で計画)	学習計画⑧	学習計画⑨	学習計画⑩
物語について取り、もっと考えたいことを見つけよう。	みんなの想いをもとに、学習課題を考えよう。	単元の学習課題を解決するための学習計画を作ろう。					単元の学習課題に対する自分の考えを決めて、これまで考えてきたことを整理しよう。	単元の学習課題に対する自分の考えを書きこう。	「ごんづね」の学習をぶり返そう。
めあて（月 日）	めあて（月 日）	めあて（月 日）							
物語について取り、もっと考えたいことを見つけよう。	みんなの想いをもとに、学習課題を考えよう。	単元の学習課題を解決するための学習計画を作ろう。					単元の学習課題に対する自分の考えを決めて、これまで考えてきたことを整理しよう。	単元の学習課題に対する自分の考えを書きこう。	「ごんづね」の学習をぶり返そう。
まとめて　ふりかえり (わかったこと・考えたこと・わからなかったこと)	まとめて　ふりかえり (わかったこと・考えたこと・わからなかったこと)	まとめて　ふりかえり (わかったこと・考えたこと・わからなかったこと)							
次回考えたいこと	次回考えたいこと	次回考えたいこと							
単元の学習課題に対する自分のけつろん	理由①	理由②	理由③	学びアップ！ ⇒		単元の学習課題に対する自分のけつろん	理由①	理由②	理由③